

第 67 回 日本 PTA 全国研究大会参加報告

富士市 PTA 連絡協議会
家庭教育 顧問 中山早由里

8月23日、24日に、第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会～つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ～に参加してまいりました。

兵庫県は、豊かな歴史と文化が息づく地であるとともに、平成7年に阪神・淡路大震災という未曾有の大災害に襲われた地でもあります。

その兵庫県で、「いのち」について考える事は、非常に深い意義があることのように思いました。

今、子供たちを取り巻く環境は、複雑かつ多様化しています。

例えば、スマホやインターネットの普及により、私たちの生活はとても便利で豊かになりましたが、その反面、子供の変化に親が気付にくい環境になっているともいえます。

コミュニケーションツールとして非常に利便性の高いスマホですが、反面、常にそれにとらわれ、頭と心を休める時間や場所が確保できなくなっている子供が増えていることも事実です。

私たち保護者が子供の些細な変化に気付き、そして心を守るために出来ることはなにかと考えた時、家庭の教育力の向上や、学校、地域とのより強い連携などがあると思います。

兵庫県でも、PTAを核とした、家庭・学校・地域住民(C:地域コミュニティ)の連携を強めた「PTCA活動」を展開しているそうです。

核家族化や共働き、ワンオペ育児など、親も常に忙しい昨今、地域社会との関わりが希薄化してきている今まさに、社会教育の担い手としてPTAの在り方が問われていると思います。心身ともに健全な子供の育成や、安心安全な地域社会、学びあい魅力ある学校作りなど、私たちPTAが今後活動していく上での役割をじっくり考えることのできた、非常に有意義な大会でした。

この大会で得た知識を、家庭や学校、地域で生かせるよう、今後もPTA活動に励みたいと思います。

